



よい会社、よい経営者、よい経営環境を目指す

新潟同友会40周年記念企画

～私と同友会～

【株式会社フォークス 代表取締役会長】
玉木 清氏
新潟支部ウェスト地区

【有希化学株式会社 取締役会長】
本間 雅樹氏
新潟支部セントラル地区

【株式会社NODA 代表取締役】
古川 敦義氏
三条支部



歴代代表理事が語る 「私と同友会」

11月20日、新潟県中小企業家同友会は創立から40周年を迎えます。

この節目に、「新潟同友会の歴史を語る座談会」を行い、

創立20周年時の筆頭代表理事 玉木清氏((株)フォークス 代表取締役会長 新潟支部ウェスト地区)、

創立30周年時の会長 本間雅樹氏(有希化学(株) 取締役会長 新潟支部セントラル地区)、

創立40周年現在の筆頭代表理事 古川敦義氏((株)NODA 代表取締役 三条支部)の3名からお話を伺いました。



2005年中小企業問題全国研究集会新潟開催



新潟同友会定時総会



2019年度経営指針成文化と実践の会



真剣なグループ討論

歴史から紐解く新潟同友会と本質

玉木氏…新潟同友会が20周年を迎える際、当時の広報委員長から「何かしないんですか?」という言葉をもらい、2002プロジェクトを立ち上げました。そのプロジェクトの実行委員長を当時副代表理事だった本間さんに引き受けてもらい、プロジェクトの3つの柱、「会勢600名」「同友会を学ぶ」「新しい支部・新たな部会の立ち上げ」を進めました。

当時の新潟同友会は非常に低迷していました。1994年に475名に拡大した会勢は、徐々に減少し、2001年には363名の最低会員数にまで落ち込んでしまいました。創立から10数年が経ち、マンネリ化していた。支部の例会をやっても集まるのはいつものメンバー、委員会もバラバラでまとまりがないような状況でした。

本間氏…2002プロジェクトが活発化したのは2002年度に入った時の事。この年から立ち上がった青年部会と女性部会が動き出したことをきっかけに、バラバラだった全体がまとまりだし、20周年記念フォーラムも開催でき、2002年度の会勢は純増で60名となりました。この時の新潟同友会の取り組みが評価され、2003年の第35回中同協定時総会in福岡にて、第2分科会で池田事務局長と共に報告を行いました。

玉木氏…座長として参加した私はその時に、「新潟には底力があるんだ」と強く感じました。目標を定め、一丸となり、組織を作った方向に向かっていくことが成功に繋がり、今日の新潟同友会の基礎に繋がり、何よりも会員の自信になっていったのだと思います。この自信が、2005年の第35回中小企業問題全国研究集会in新潟に繋がりました。2004年7月

の三条水害、10月の中越地震と災害が次々に発生。翌年2月の全国行事の準備をする中、開催について選択を迫られました。余震が続く、県内の状況も非常に厳しい中で「やめた方がいい」という声はたくさんありました。しかし、全国から数多くのエールを頂き、開催することを選びました。開催する側だけでなく、参加する側も不安のあったであろう全研は、全国47都道府県から1186名が集まりました。「新潟を元気づけよう、少しでも応援しよう」という想いが伝わり、迎える側もそれに応え「全国の仲間を盛大にお迎えしよう」という想いが高まり、大成功だったと思います。この大変な全研を引つ張ってくれたのが、宇山氏(南新潟クラーサービス 代表取締役社長 新潟支部セントラル地区)でした。今回の40周年も、会員の皆さんの想い一つで変わっていくのだと確信しています。

本間氏：私は2008年に会長となりました。会員数も530名となっていました。これをピークに徐々に減少。どうにかしなければ、と新支部づくりに取り組みました。2002プロジェクトから、上越、村上、三条、新発田、佐渡、柏崎と県内の空白地帯で支部を立ち上げ、どの支部の立ち上げにも深く関わることができました。代表理事や会のトップになって、一番考えるのは会の増強でした。新潟同友会の力を高めるため、認知度の幅広い向上は、社会運動を進める会にとって必要なことです。

玉木氏：本間さんが言ったように、同友会は社会運動、社会改革運動、社会改善運動。自分の会社「だけ」を良くする会だと思つたら大間違いで、「自分たちが良くなることで、支部を作り、仲間を増やすことが周りを変えられ」とプライドと誇りを持って運動に取り組

む会です。それは、同友会の歴史を見れば明らかで、企業経営と社会性が結びついている、外部環境改善運動から始まって、戦後の「生きていくためにみんなで頑張ろう」という中小企業運動が、今日まで続いている。根底にある存在意義をみんなで学んで、理解してほしいなと思います。

本間氏：昔から変わらず、同友会は本質と本音を語り合う場所です。息子(本間英樹氏 有希化学(株)代表取締役)から聞く話を例に出せば、一年に一度全国の青年部会の仲間とどこに集まって、決算書を見せ合い、赤字があれば「この数字どうなんだ、何が原因かわかっているのか?」と話し合い、科学性、数字、戦略戦術の話だけではなく、経営の仕方姿勢考え方が間違っているんじゃないか?と膝を付き合わせる。経営者の入り口の考え方が変われば、戦略も戦術も変わり、社員さんの受け取り方も変わり、会社の角度も変わってくる。お互いの会社を真剣に見て、真剣に話し合う環境は他にはありません。

古川氏：この社会性という面で考えると、近年若い人たちの就職先の基準として、「この会社は世の中にどう役に立っているのか。」という意識がすごく高くなってきている。社会性の重要性が非常に高い中でも、企業や地域、国を維持していくためには、しっかりと利益を出して会社を存続し続ける必要がある。だから、私たち中小企業家は、「会社を良くしていかなければいけない」という同友会の3つのバランス(科学性・社会性・人間性)が絶対に必要で、さらに社会性が若い人たちにとって身近になってきています。それが、すごくいいなと感じていて、同友会の若い世代が中心になって策定したNDGsも、SDGsをバクっているように、ものすごく大切なことなんだ

と感じています。なんだかんだ時代や世代が変わっても、きちんと同友会の根幹の部分に戻ってきている。これが人間なんだと感じています。

私にとっては、今回このお二人と歴史を語り合うということは、すごく意義のあることで、私が20年前に同友会に玉木さんからお願い頂いた当時は、こんな話さっぱり分かりませんでした(笑)。

新潟同友会の「経営指針を創る会」

本間氏：2000年に経営指針委員長になり、(故)品田保男さん(株)シナゼンと宮城同友会の経営指針を創る会に参加しました。当時新潟は「経営指針作成部会」という経営指針を創ることが目的の会でした。そのため、作ることはできるけど、みんな作りっぱなしになっていました。

宮城同友会で目にしたのは、セッション中心の会。30人以上の受講生が、100人以上のメンバー(現サポーター)と一緒に指針を創り上げる会に強い刺激を受け、品田さんと「あれで行こう」と指針を創造する「経営指針を創る会」と名称を変更しました。そこからは、指針を絵に描いた餅にせず、実践するための指針を創る会にしました。自身が指針を作成した後はメンバーとして関わってきました。各社の指針に真剣に取り組み、涙を流して、互いに激励し本音をぶつけ合い、1つの指針を創り上げる。メンバーとして人の指針に関わり、自社に置き換えて見つめなおすことが、自身の経営にとってなくてはならないことでした。だから私は、経営指針を創つたその年から現在まで、経営指針のサポーターを続けています。

古川氏：私は本間さん達が変わった第3期経営指針を創る会を受講しましたが、本音で語り合うには、同友会の自主民主連帯の精神、お互いが対等の立場という環境が不可欠です。自分が本音を話さなければ、相手も本音は話してくれません。お互いが真剣に向き合うことができるのが同友会で、本音を知れることが一番大事なことで感じています。

みなさんはなぜ同友会に?

古川氏：実は、最初に入会したのは経営者の私ではなく、新潟営業所の所長でした。玉木さんに誘われましたが、「勘弁してください」と言つて、所長の入会でごまかしていました。ある時、飛び込みで来たメーカーさんに「御社の経営理念は?」と聞かれました。思わず



佐渡支部の設立

業他社でライバルです。元々うちより大きい会社だったのにさらに成長されて、こんな人誘わなきゃよかった。(笑)

古川氏：今回の40周年の企画は、私にとってもすごくうれしい企画で、私の入会のきっかけになった玉木さん、指針でお世話になった本間さんと20年前を振り返られるということがすごくありがたいと思っています。指針の会を受けても机にしまった経営指針を、三条水害で痛目目に合つてから引つ張り出して、真剣に考えるようになりました。

「は？」と答えられません。今ほど経営理念という言葉が一般的でなかった頃ですが、経営指針を創る会を受講する必要があると感じ、登録を私に変更しました。受講後「これ指針の会をライフワークとして続けなさいよ」と言われ、そもそも後継者である自分は自信もなく、その気になりそれからずっと経営指針に関わってきました。ほとんど指針にしか関わっておらず、恥ずかしながら支部長の経験ありませんが、代表理事までさせてもらっています。

本間氏：古川さんが経営指針を受けている時に、「頭がいいな」と感じました。なるべく早く、経営指針を始め理事をしてもらいたいと思ひ、経営労働委員長や副代表理事に推薦しました。指針も含め、本音で話し合える人との出会いが本当に大切だと思います。

玉木氏：私の学生時代は、学生運動等社会が荒れに荒れていた時代でした。その時に、世の中の矛盾にもすごく違和感を持ちます。会社に入っても、働く側と経営者が闘いをするという社会構造に、自身が働き出世する理由

が見出せませんでした。会社を辞めて、新潟に戻り、なんでもいっしょとたまたま父親がやっていた小さな会社に入ります。10年くらい経つた後、自身の会社を興して少し経つた頃、仕事の付き合いのあつた方が、「同友会で経営指針を創りませんか？」と誘われ入会しました。

しかし、私にとつてそれ以上の同友会最大の魅力は、労使見解でした。労使は信頼関係、お互いが対等な仲間である、「こんな団体があるのか」と感動しました。

同友会の未来

古川氏：今、会として協議を行っている一般社団法人化にもつながる部分ではありますが、全国の同友会の動向として「事業的な活動」と「同友会の本質的な活動」が同居しています。この2つを分ければすっきりするのもかもしませんが、同友会の目指す社会には、事業的な活動も必要だと思つて、本質的な人間的な繋がりも必要だということ。同友会はこの2つを繋ぎ合う組織であり続けたいと感じています。VISION2022に掲げさせてもらった「あい、語り、共に生きる」が同友会の姿だと考えています。

本間氏：わかりやすく言えば、1000名規模の会勢になることです。全国には参考になる同友会がたくさんあつて、その中枢の企業は科学性に非常に長け、ほとんど企業を大きくしている。「同友会で学んで会社をでかくなりまし。社員も幸せです。」という体現者を増やしていくことが一つだと思ひます。1000名という量だけじゃなく、質も高めないといけない。よい会社を作るためには、よい経営者にならなければいけない。よい会社が集まれば、よい経営環境を作ろう！と



30周年プロジェクトの様子

考えるわけです。この3つの目的を体現できる人を増やしていくことが地域をよくし、自分と同じ志を持つ仲間たちが社会を少しでも変えていく、そういう新潟同友会に「一歩一歩なつてほしいと、繋いだタスキに想いを持っています。」

玉木氏：今、若い世代が一生懸命増強に励んでくれて、仲間を増やしていつています。同友会の会勢のうち、入会5年未満の方がかなりの割合いると思う。その方々が同友会の本質を知る、学ぶ機会というものはなかつたんじゃないかと感じています。同友会は本当に奥が深い。ただの利益優先の金儲けの団体でもない、経営者としての思想や哲学をきちんと持ち、経営者自身がどう生き抜くか、という深いところまで学ぶととてもやりがいのある会に

なる。これからというよりも、新潟同友会の会員各支部が「何のために同友会にいるのか」と本質論議をする場を持つてほしい。志なき組織は衰退する。高い志を持つて、みんなが幸せになる社会の実現に同友会運動を続けてほしいと思っています。

まだまだ続く座談会…

本間氏：最近、指針の場ではよく言うんだけど、科学性を追求して「儲けよう」と考えていくと最後は同友会の人間性に行き着く。自分一人では儲けは出さず、社員が賛同して、お客さんが納得して初めて利益が出てくわけて、「儲けよう」と社員が思ってくれば、社員はお客様第一主義に自然になっていく。そのため社長は社員第一主義になる必要がある。科学性は社会性にも繋がります。同友会の言う

科学性は「利益至上主義」とは違うから、社会に認められない儲け方は、絶対に儲けさせてもらえないんですよ。3つのトライアングルに順番はなく、どれを重要視するかには人によって違い、正解はないと思います。でも、科学性で利益を上げることに真摯に考えた時には、他の2つも深く関わってくるようになります。これは、全国同友会にたくさんの実践例があります。

玉木氏：俺は、この話を聴いているとすごく寂しい気持ちになる。科学性が大事なのはよくわかるけど、科学性を前面に出していくというのは同友会らしくないと思うんだよ。

本間氏：いや、赤石さん(元中同協会長)も全面的に科学性を出していますよ。

玉木氏：赤石さんの本を読んでもいればそんなことは言えないと思いますよ。赤石さんは、人間性を学び実践しなさい、と言っているんです。よい会社・よい経営者・よい経営環境のう

ち、よい経営者になることこそが一番大切だと。これが同友会と他団体の一番違うところなんだと言っているんです。決して科学性を否定するわけではありませんが、トップに立つものとして科学性ばかり言っているのは、私は問題だと思つて。

本間氏：それは、受け取りの方の問題だと思っています。私も、「科学性が目的だ」とは言っていない。科学性を追求する先に、最終的には人間性に行きつく、社会性にも行き着くんだ、という話をしているんです。

玉木氏：経営者一人ひとりが、生き様を学ぶのが同友会。「おまえはどう生きるんだ！」と問われるのが同友会なんです。会社の大小・性別・年齢は関係ない。同友会の一番の目的は、みんなが幸せに生きる社会づくりにあるんだよ

ということを絶対に忘れてほしくない。その先が利益に繋がるといふことを言っているか、といかない。

本間氏：玉木さんのお話の根底はわかりませんが、それだけではいけない部分がある。社員さんの雇用をどう守っていくか、そのための社会をどうしていくかと考えることが、経営者としてどうやって生きるのか、というところに繋がっているんです。

古川氏：最終地点はお互いほぼ同じことを話しているんですが、その過程の中で重要視している部分やアプローチの掛け方の違いがある。性別・年齢・会社規模関係なく、この一人ひとりの違いを真剣に語り合つて、お互いが納得のいくまで話しあえる。これが同友会の最大の強みだと思います…まとめましたでしょうか？(笑)



古川 敦義氏

株式会社NODA
代表取締役(三条支部)
住所：三条市南四日町4-12-20
TEL：0256-32-0974
事業内容：美容室の繁栄に貢献すること
同友会：2001年入会、2016年度～代表理事



本間 雅樹氏

有希化学株式会社
取締役会長(新潟支部セントラル地区)
住所：新潟市江南区岡川2丁目3927番17
TEL：025-282-9333
事業内容：工業用薬品、洗浄剤、金属表面処理剤、
洗浄設備、廃水処理設備・薬品
同友会：1992年入会、2004年度～2007年度 代表
理事、2008年度～2017年度 会長



玉木 清氏

株式会社フォークス
代表取締役会長(新潟支部ウエスト地区)
住所：新潟市西区山田2307-34
TEL：025-233-1620
事業内容：美容用品・薬剤・器具・器材の卸売、
ケアプラン作成事業、ヘルパー派遣事
同友会：1990年入会、2001年度～2006年度 代表
理事、2009年度 会長

ANOTHER REPORT

例会や行事の報告など、情報共有の場としてフリーテーマで同友会の情報を発信します。

NDGs2030(新潟 同友会 ゴールズ)の活用を! 「中小起業家の力で新潟を元気にする!」

NDGs2030とは

新潟県中小企業家同友会の10年ビジョン「NDGs2030」がスタートしました。

NDGsは、新潟同友会として、「2030年の新潟はどんなになってほしいか」。そのために、「2030年の各社はどのようになっ

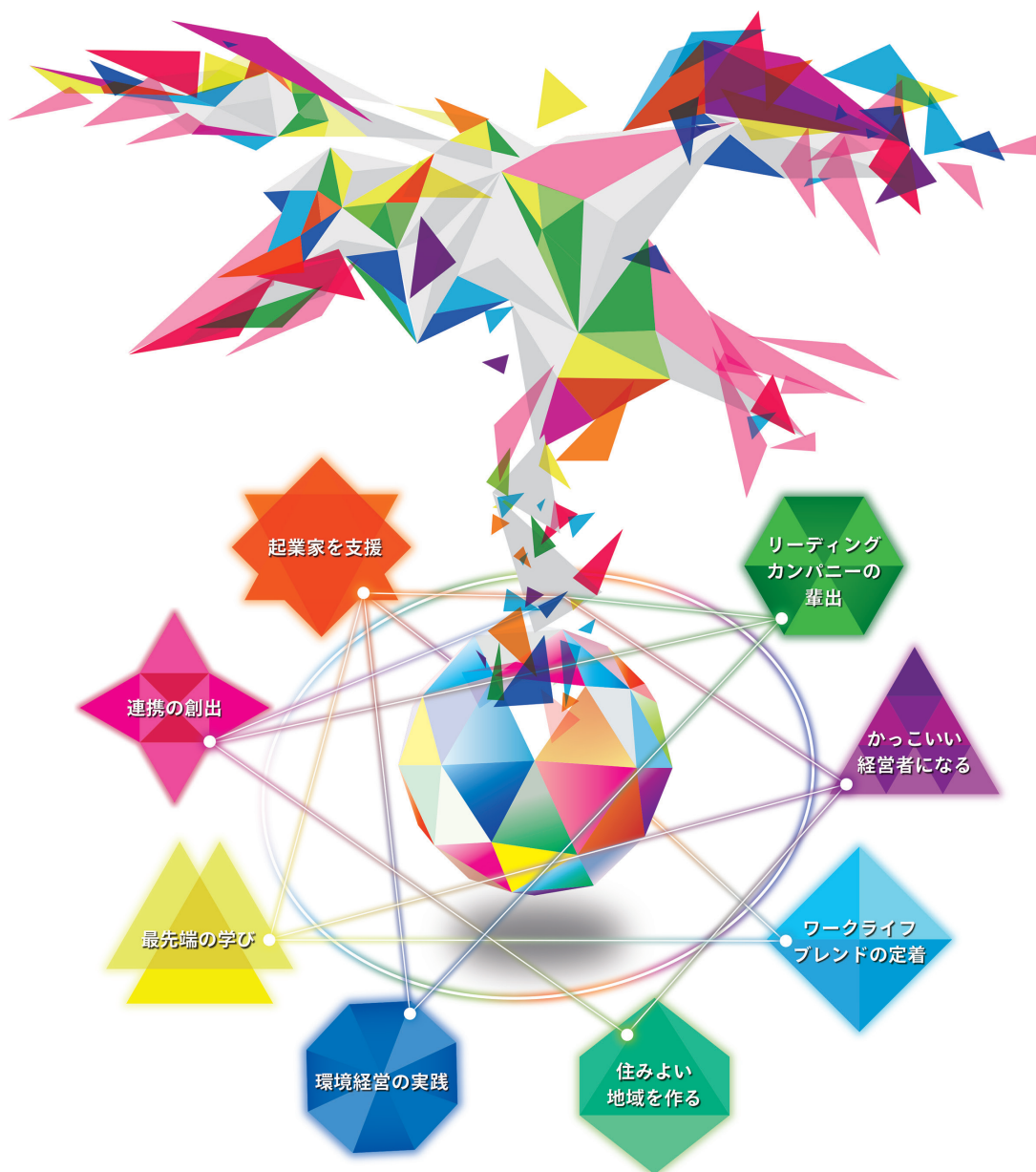
てほしいか」。そして、「2030年の新潟同友会はどうなっているべきか」について協議し、成文化した中期目標です。

モデルのベースになったSDGs(2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標)には、同友会の理念や目指す形がカテゴリーやターゲットの中に含まれていません。その中でも、「誰一人取り残さない社会をつ

くる」「持続可能な社会をつくる」を参考にし、同友会のビジョンとして掲げました。これらは、同友会の目指す形だけでなく、中小企業各社のビジョンづくりにも生かせるようになっていきます。NDGsのリーフレット(11月18日公開予定)内の未来実現プログラムに記入していくことで、各社の現状を確認し、自社の強み弱みや次のステップの具体的なイメージの作成等、自己診断をす

るきっかけにご活用ください。

「私たち中小企業家が持続可能な新潟経済を作るための運動」の精神から「企業家の力で新潟を元気にする!」に取り組みます!



NDGsの 具体的な内容

NDGs2030は、8つのカテゴリーと24つのターゲットから構成されます。カテゴリーは、「リーディングカンパニーの輩出」「カッコイイ(ステキな)経営者になる」「ワークライフブレンドの定着」「住みよい地域をつくる」「環境経営の実践」「最先端の学び」「連携の創出」「起業家(第二創業)を支援」に分類され、さらにその中に31のターゲットが設定されています。

新潟同友会では、これら取り組むカテゴリーとターゲットを課題解決の場となる8つの委員会部会で深めていきます。リーフレットのリーダーチャートから自社が伸ばしたいもの、足りないものが見つかったら、ぜひ各委員会部会にご参加いただき、必要な学びを深めてください。

※詳細は後日配布されるリーフレットをご確認ください。

NDGs2030「8つのカテゴリー」

1 起業家(第二創業)を支援

魅力を生かす!
チャレンジする不屈のマインドを
育てるための実践

2 連携の創出

弱みを補い、強みを生かす!
より広く大きく羽ばたくための実践

3 最先端の並び

可能性は無限、
固定観念を脱ぎ捨てる!
常に新しい視点・発想を持ち続けるための実践

4 環境経営の実践

これからの新しい経営スタイルの確立を!
持続可能な社会にするための実践

5 住みよい地域をつくる

ここに住み続けたい、
「幸せの見える地域」を目指す!
暮らしを守り、人間らしく生きるための実践

6 ワークライフブレンドの 定着

生き方・働き方の多様性を保証し、
一人ひとりが輝く企業と社会へ!
多様な人々が生き合う環境を整えるための実践

7 カッコイイ(ステキな) 経営者になる

内面を強く、そして発想は柔軟に!
自らを輝かせるための実践

8 リーディングカンパニーの 輩出

キラッと光る小さな一流企業を目指せ!
とんがった会社になるための実践

「よりよい新潟のため」を目標に2030年の未来づくりをしていくためのツールです。2030年になった時に、「この会社は面白い!」「この会社は地域に無くてはならない!」「この会社は人生を過ごす価値のある会社だ!」「そんな会社は自社を持つて行きたくありませんか?」
約二年間かけてNDGs策定委員会ですっかりと議論し、そんな特別な会社づくりができるように8つのカテゴリーを設定させていただきました。

これからは絶対に「こがつた(他に無い特色のある)経営」が必要な時代です!!1社1社でとんがった部分を見出し、600名のメンバーで楽しくワクワクできる新潟を創っていきましょう!!!!



NDGs
策定委員会
吉田智氏
((株)吉田工業 代表取締役
新潟同友会副代表理事 燕支部)

INFORMATION

新潟県中小企業家同友会 一般社団法人化の検討について

各幹事会やメール、e.doyuではすでにお知らせしていますが、新潟同友会は現在、会の一般社団法人化についての検討を行っています。

新潟同友会40周年に向けた「にいがたミライ☆プロジェクトストーリー」の中で、“新潟同友会の目指す形”を検討し、その一つとして一般社団法人化の協議がスタートしました。

2022年度第4回理事会で検討委員会を立ち上げ、すでに一般社団法人化している東京同友会・香川同友会からヒヤリングを実施。12月23日(金)に「新潟同友会の一般社団法人化に向け具体的に動いていくこと」を議案とする臨時総会を開催することが第5回理事会で決定しました。

一社化の目的は大きく3つ。1つ目は、【社会的地位の向上】です。法人格を取得することで、行政やメディアに対する発信力を

向上が見込まれ、市や県に対する政策提言の影響力の増加等がメリットと考えています。2つ目は、【事業活動の幅を広げる】です。任意団体では取り掛かり難い「連携の先の事業構築」への取り組みは会員メリットを創造するものと考えます。3つ目は、新潟同友会を【きちんとした経営者団体】とすることです。一社化にあたり、所有が個人から法人になることで、個人補償が問われるリスクが無くなります。

現在、上記内容に対するご質問を受け付けており、随時会員皆様へご説明をして参ります。広報誌に同送された資料をご確認いただき、ご意見・質問のある方は、ご記載の上事務局までご返送ください。

【新潟同友会代表理事 一般社団法人化検討委員長 古川敦義 氏(株)NODA 代表取締役 三条支部】

《新入会員紹介》 入会おめでとうございます。新しく入会された会員を紹介します。》

① 役職 ② 業務内容 ③ 支部 ④ 入会日



かいせ ひろのり
海瀬 弘典

(有)桂林

- ① 代表取締役
- ② 処方せんに基づきお薬を準備して、服薬方法や服薬上の注意点、お薬の飲み合わせなどについて患者さんにご説明したうえでお渡しする
- ③ 上越支部
- ④ 2022年3月31日 入会



おぐろ たかゆき
小黒 崇行

ふかぼりセレクト

- ① 代表取締役
- ② パソコントラブルサポート、経理代行、スマホ・パソコン教室等
- ③ 下越南支部
- ④ 2022年3月31日 入会



とりやま みちこ
鳥山 道子

とりやま保険(株)

- ① 代表取締役
- ② 生命保険代理店
- ③ 村上支部
- ④ 2022年4月1日 入会



とりやま せな
鳥山 世奈

とりやま保険(株)

- ① 取締役専務
- ② 生命保険代理店
- ③ 村上支部
- ④ 2022年4月1日 入会



このま じゅん
木間 淳

木間(株)

- ① 代表取締役
- ② 内装仕上げ(クロスCFなど)、リフォーム工事、新築工事
- ③ 下越南支部
- ④ 2022年4月7日 入会



いとう わたる
伊藤 渉

HOSTEL perch

- ① 代表
- ② 宿泊業、飲食業、浴場業、酒類販売
- ③ 佐渡支部
- ④ 2022年4月8日 入会

DO YOU KNOW? にいがた

2022年11月1日号

新潟県中小企業家同友会 広報情報化委員会

住所：〒950-0926 新潟市中央区高志1-3-21
TEL：025-287-0650 FAX：025-383-6225
E-mail：info@niigata.doyu.jp
HP：https://www.niigatadoyu.jp/

頒価250円(年間3,000円・送料別)
会員の購読料は会費に含まれます。

編集後記

ついに新潟同友会も40周年!!!今月の広報誌は、同友会の歴史・現在・未来が詰まった内容になっています。特集の玉木さん・本間さん・古川さんの対談はここでは書ききれず、泣く泣く削った部分も多くありました。少人数での取材となったことがもったいなく感じますが、これも広報情報化委員会の役得ということで…まずは、ぜひ14日～18日の経営フォーラムに、リアルでも、オンラインでもご参加ください!!

新潟同友会 事務局 高橋拓夢 記